

家屋の倒壊が著しい地域の様子（益城町中心部）



家屋の倒壊が著しい地域の様子（益城町中心部）

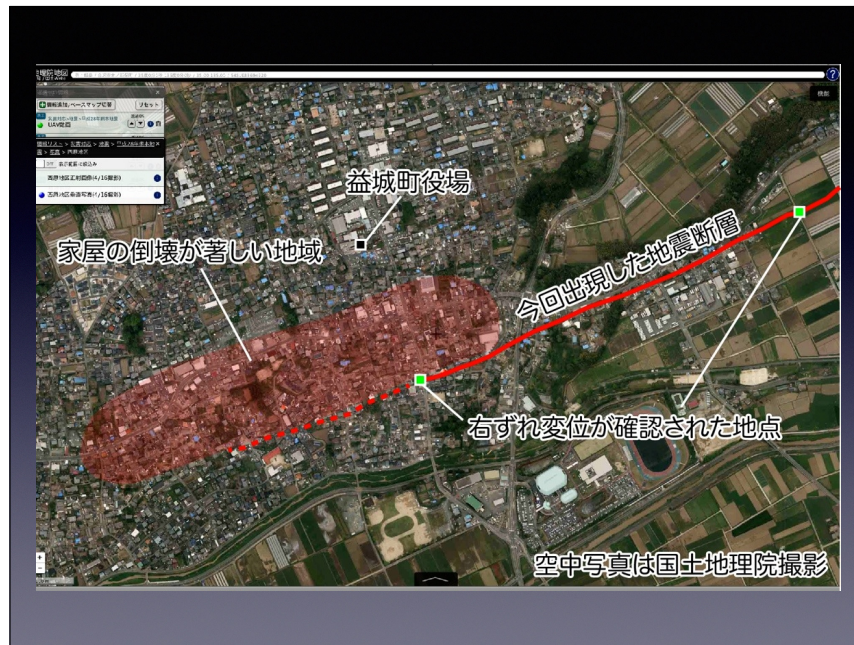


益城町役場西の南北に延びる道路



至益城町役場

白線右ずれ40cm



2016年4月16日早朝に発生したM7.3の地震にともなって地表に出現した地震断層について、直後の野外調査によって得た情報の概要を報告する。

- 1) 地震断層は、都市圏活断層図「熊本」で示された布田川断層に沿って出現した。これまで確認した地震断層の断層線は、益城町堂園地区の北方から同町上高野地区に至る長さ約10kmである。(以下、主断層と呼ぶ)
- 2) 既存の活断層図で示された断層線とは異なる位置で、長さ約5kmの地震断層を発見した(以下、分岐断層と呼ぶ)。この断層線は、益城町上陳地区で主断層と分岐し、西南西に向かって益城町役場の南に至る。このため、益城町中心部において、家屋の倒壊など甚大な被害が生じたのは、分岐断層が原因と考えられる。
- 3) 主断層、分岐断層とも右横ずれ変位を示す。これは、地震の発震メカニズム解と調和的である。これまで確認された最大横ずれ量は、前者では約2m、後者では1.2mである。